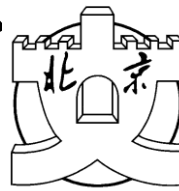


かささぎ



北京日本人学校
学校通信 第5号
令和元年9月27日
校長 栗本 和明

北京日本人学校 教頭 小川 裕子

9月7日に、運動会を行いました。夏休み前から準備や練習を進めてきた児童生徒の皆さんが、当日、生き生きと伸び伸びとはつらつと演技や競技に臨む姿に大変感動し、元気をもらいました。スローガン通りズキュウーン！とハートを射抜かれてしまいました。

保護者の皆様におかれましては、朝早くからお集まりいただき子供たちへの暖かい声援、父母会の係の仕事や親子競技への参加等、様々な形でご協力いただきましたこと、改めて感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。



つながろう！

1学期が終わり、2学期が始まりました。北京日本人学校に赴任して以来、毎月行う歓送迎式の時に感じていること、それは「出会い」と「別れ」の機会の多さです。2学期の始まりまでに約30名の児童生徒の皆さんが北京日本人学校を去り、新たな環境に飛び出していきました。そして、約30名の新しい仲間がこの北京日本人学校にやってきました。

たくさんの「別れ」に着目すると少し寂しい気持ちになりますが、「別れ」があるということはその前に「出会い」があったということです。

さて、今世界の人口は75億人を超えています。その中で私たちが生涯に出会える人は何人ぐらいいるのでしょうか。1秒に1人の人と出会ったとしても、全員に会うにはなんと240年近くかかってしまいます。今、そばにいる人達とこうして出会えて笑いあって話ができること、一緒に勉強したり、行事に取り組んだりできることは大変稀で貴重なことだと思いませんか。この貴重な出会いが自分にも相手にも価値あるものになるように、せっかく出会った人たちとしっかりつながりたいですね。確かなつながりができた人とは、遠く離れることがあったとしても、いつまでも近い存在でいられると信じています。



私が入とつながるために意識していることはありきたりですが、やはり「あいさつ」です。「おはよう」「こんにちは」「おやすみ」「ありがとう」「ごめんなさい」とってもシンプルで短い言葉ですが、相手のことを考え、自分の気持ちを込めて言うようにすると、言葉以上の思いが伝わる気がします。児童生徒の皆さんも「あいさつをしましょう」と言われてからするのではなく、目の前の人との出会いを大切に思い、つながる意識をもってあいさつを試してみてください。

お願い

入校者の本人確認を徹底しています。保護者の皆様も来校の際は必ず「入校証」をご持参ください。もし、紛失等でお手元に入校証がない場合は担任を通じて再発行の申請をお願いします。



事務局からのお知らせ

10月は授業料の納付月です。月予定を確認の上、10月11日(金)の期日に遅れないように10月～12月の授業料の振り込み手続きをお願いします。

夏休み作品展を終えて

小中連携部

お忙しい中、夏休み作品展に足をお運びいただき、ありがとうございます。また、たくさんの方々に温かいご感想をいただきましたことを重ねてお礼申し上げます。

今年作品展も絵画や書写、工作や手芸、自由研究など見ていて興味を引き付けられる作品ばかりでした。展示期間中、廊下を通る度に自然と足が止まり、見入ってしまう児童生徒の姿を多く見かけました。友だちの作品を見ては「この絵、すごいよ！とってもきれい！」と驚いたり、「これどうやって作ったんだろう？」と上級生の作品に興味を抱いたり、様々な感想をもったようです。学級を超えて、そして学年を跨いでお互いの作品を見合う機会は、北京日本人学校ならではの光景でしょう。

作品展最終日の土曜日（8月31日）も、多くの保護者の方で廊下が賑わっていました。保護者の方からは、「どの作品も個性豊かですばらしいものばかりでした。」「それぞれの作品から、作成者の思いや研究内容に対する興味関心の強さが伺えました。」などの感想をいただきました。興味のあることを探求する楽しさが、作品展から日々の学習へと広がり、今後の生活に生かされることを願っています。

【第41回運動会を終えて】

～運動会実行委員長の先生&生徒会長との対談～

先生（以下T）& 生徒会長（以下S）：こんにちは！！

T：今日のテーマは運動会を振り返ってということで、生徒会長のSさん、お願いします。

S：お願いします。

T：それでは早速ですが、Sさんから何か質問はありますか？

S：はい。まずは、今年はプログラムの順序変更や行進賞、徒競走の得点外種目化など、新たな試みがたくさんありましたが、どのような経緯で決定されたのですか？

T：まずはプログラムの順序変更について。バーの移動をスムーズにして、手間も少なく、保護者の方にも見やすくするためにやってみました。次に行進賞についてですが、「とにかく元気に運動会を始めたい」という思いから、挑戦することにしました。実際、今年の運動会はとても元気よく始められたと思います。最後に徒競走についてですが、これについてはみなさん、びっくりしたかもしれません。しかし、走るのが苦手な子どもでも「のびのびと走ってほしい」という思いから、得点外種目としました。得点の入れ方がどうしても公平性に欠けてしまうというのも理由の一つです。

S：なるほど。では2つ目の質問です。T先生が、一番印象に残っている場面はどの場面ですか？

T：どの競技も白熱した戦いで、どれか一つというのはなかなか難しい質問ですが、どうしても一つに絞るのであれば、やはり「ハチノコジャンピオン」ですかね。途中経過でも非常に僅差だったので、ドキドキしました。あとは、最後の中学部団対抗リレーや、アンカーの団長同士が優勝をかけて走っている姿もとても格好良かったです。あ、2つありますね！

S：暑さにも負けず、大きな怪我もなく終わられて良かったです。では最後に、児童生徒に向けてメッセージをお願いします。

T：みなさん、暑い中本当によくがんばりました。全員が心を一つにして一生懸命取り組む姿というのは、見ていてとても感動します。今後もJSBの色々な活動がありますが、子どもも大人も心を一つにして、頑張っていきましょう！！

S：ありがとうございます！

T：では今度は、僕からSさんに質問します。まずは、今年のスローガンの決定の経緯について、教えてください。

S：運動会のスローガンは生徒会役員が中心になって、小学部5年生以上にアンケートをとって決められました。最初から、去年のスローガンが迫力あるものだったので、「それに負けないようにしよう」という思いがありました。話し合いの中で、1人の役員が「擬音語を使ったらどうだ？」という意見を言ってくれて、そこで「ズキュウーン」というフレーズが生まれました。

T：素晴らしいスローガンでしたね。では次に、生徒会長として、今年の運動会に臨むにあたって大切にしていたことはなんですか？

S：うーん、正直「生徒会長として」というのはあまりなかったのですが、「1人の中3として」考えていたのは「集団をまとめる雰囲気作り」を意識していました。具体的に言うと、団長副団長が話をする時に注意がそちらに向くように声かけをしたり、少しふざけたり遊んだりしている人がいたら、その時にどうすべきなのかを教えることを意識して練習に取り組みました。

T：Sさんをはじめ、中学部の生徒や、高学年の児童の皆さんのおかげで運動会の練習はとてもスムーズにいったと思います。では、3つ目の質問は、生徒会長が一番ズキュウーンときた場面はどこですか？

S：これは、白団の中3全員だと思うのですが、応援演技の最後の隊形が難しくて、練習では低学年の子たちが中々覚えられなかったのですが、本番では音楽にぴったり合わせて決まった瞬間がとても感動しました。

T：私も白団でしたが、最初は大変でしたからね。(笑)質問は以上です。Sさん、今日は本当にありがとうございました。

S：こちらこそ、ありがとうございました。

T：今年の運動会は、全員の協力により本当に素晴らしいものとなりました。来年度の運動会も、児童生徒、そして教師が心を一つにして頑張っていきましょう！



ただいま何人？

小学部

令和元年9月26日現在

	男子	女子	合計		男子	女子	合計
1-1	9	10	19	4-1	9	11	20
1-2	9	11	20	4-2	9	11	20
1-3	9	10	19	5-1	15	11	26
2-1	10	10	20	5-2	15	12	27
2-2	11	10	21	6-1	10	8	18
3-1	8	12	20	6-2	10	7	17
3-2	9	12	21	小総計	133	135	268

中学部

	男子	女子	合計		男子	女子	合計
1-1	8	7	15	3-1	14	8	22
1-2	8	8	16	中総計	38	35	73
2-1	8	12	20	総合計	171	171	342